

ひまわり



薩摩郡医師会では、医療・介護・福祉・行政の多職種が連携し合い、住民の方が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう必要な体制づくりに取り組んでいます。

平成27年度在宅医療推進フォーラム(10/31)



第1部:谷山芸能保存会の皆さんによる「谷山そば切り踊り」で賑やかにそして楽しく盛り立てて頂きました。



会場も笑い声に包まれ和やかな雰囲気にも包まれました。



第2部の基調講演では、「住み慣れた場所で安心して暮らせる地域を目指して」のテーマで、鹿児島県医師会常任理事の銚之原大助先生より鹿児島県の高齢化率から事業の内容、まちづくりについて解りやすくお話頂きました。



シンポジウム「大切な人を見ること 看取ること」



第3部のシンポジウムでは、在宅で看取りをされた事例について、医師、訪問看護師、ケアマネジャー、そしてご家族の立場からご発表を頂きました。ご家族の発表を聞きながら、思わずもらい泣きをされた方も多かったと思います。延べ306人の方々にご参加頂きました。アンケートでは、たくさんの方に「とてもよかった」と書いて頂きました。また、フォーラムの運営に多くのスタッフのご協力を頂きました。皆様、本当に有難うございました。





在宅医療における人材育成(多職種研修会)(10/8)



薬剤師会副会長の岩元暢秀先生の主導で、架空事例を用いてグループワークを行いました。構成メンバーは、各専門職、医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、介護支援専門員、歯科衛生士、ソーシャルワーカーに6つのグループに分かれて問題点・課題の抽出から連携プランまでを話し合って頂き、最後は、全グループに発表して頂きました。各専門職ならではの提案があり、「目からうろこ」でした。薬剤師会が中心に企画して頂いた事は、また、新たな連携の輪に繋がったのではないかと思います。初めて顔を合わせる方も多く、顔見知りになる機会になったのではないかと思います。参加総数は、43名でした。



多職種連携:緊急時通報システムの取組み



ALS患者城ヶ峰繁さまの主治医(わかばクリニック:堀之内先生)より、主介護者である奥様の不在時の緊急時通報システムについてのご相談あり。さつま町役場保健師田口さん、びっぐすまいる訪問看護ステーション柳田さんと共に訪問。第1回目のデモンストレーション:10月15日にカスタネットタイプの器具を検討。熊本の管理局を経由する為、城ヶ峰さまの意向で、携帯電話で直接消防署に通報できる方法を検討することとなりました。



第2回目:10月29日、川薩保健所石野さん、さつま町役場田口さん、びっぐすまいる訪問看護ステーション柳田さんにより携帯電話での通報のデモンストレーションを行って頂きました。**指、腕の動きが限られる中で、「1」をワンプッシュするだけで通報できるようになりました。消しゴム付鉛筆を吸盤で固定するアイデアは奥様が考えられました。**さつま町消防本部にもお忙しい中1時間ほどデモンストレーションにお付き合い頂きました。

<在宅医療推進支援室より>

今年も残すところ2ヶ月足らずとなりました。一大行事の住民フォーラムも皆様のご協力により成功に終わる事ができました。事例検討会や緊急時通報システムの取り組みなど、充実した月でした。住民フォーラムのアンケート結果等はホームページに掲載する予定です。(K)

お知らせ:11月~12月の行事予定

- 11月11日(水) 在宅医療推進事業運営委員会
- 11月21日(土) 多職種研修会「超高齢社会に必要な口腔ケア」(ひまわり館)
- 11月28日(土) 認知症フォーラム(宮之城文化センター)
- 12月1日(火) 研修会「身近な材料で治療食を実際に作る」(鶴田保健センター)